HTMLファイルを開き、下記URLと同様の画面が出るかを確認してください。

<https://diveintocode.gyazo.com/b85987a890740eea06232a25ee5a34bc>

確認できましたら、html,css,jsの3つのファイルを使って以下の11つの課題をやっていきましょう（課題の際はネットの記事などをどれだけ参考にしても構いません）

１．$(document).ready(function(){ ~ });の記述の意味（この記述が何をしているか）をネットの検索などを活用して調べ、自分の言葉で構わないのでまとめて課題投稿のコメント欄に提出する

2．$(‘#btn-evaluation’).click(function() { ~ });の記述の意味（この記述が何をしているか）をネットの検索などを活用して調べ、自分の言葉で構わないのでまとめて課題投稿のコメント欄に提出する

3．$(‘#national\_language, #english, #mathematics, #science, #society’).change(function() { ~ });の記述の意味（この記述が何をしているか）をネットの検索などを活用して調べ、自分の言葉で構わないのでまとめて課題投稿のコメント欄に提出する

4．$(‘#national\_language’).val()の記述の意味（この記述が何をしているか）をネットの検索などを活用して調べ、自分の言葉で構わないのでまとめて課題投稿のコメント欄に提出する

5．Number()の記述の意味（この記述が何をしているか）をネットの検索などを活用して調べ、自分の言葉で構わないのでまとめて課題投稿のコメント欄に提出する

6．$(“#sum\_indicate”).text(sum);の記述の意味（この記述が何をしているか）をネットの検索などを活用して調べ、自分の言葉で構わないのでまとめて課題投稿のコメント欄に提出する

7．.appendの記述の意味（この記述が何をしているか）をネットの検索などを活用して調べ、自分の言葉で構わないのでまとめて課題投稿のコメント欄に提出する

8．国語・英語・数学・理科・社会のどれかの点数の内容が変更されたら、５つの教科の合計点と平均点を出力する機能を作成する。

9．「ランク」のボタンを押したら、５つの教科の平均点が80点以上なら”A”、60点以上なら”B”、40点以上なら”C”、それ以下なら”D”の文字を出力する機能を作成する。

10．「判定」のボタンを押したら、全ての教科が60点以上なら”合格”の文字列、一つでも60点未満の教科があったら”不合格”の文字列を出す機能を作成する。

11．最終ジャッジ」のボタンを押したら「あなたの成績は〇〇です。××です」といった内容を出力する処理を書き込む（〇〇には、「ランク」のボタンを押した時と同じ処理結果の文字列、××には、「判定」のボタンを押した時と同じ処理結果の文字列を出力する）